



# THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

山梨県甲府市中央5丁目4-11  
山梨YMCA青少年センター  
〒400-0032 TEL 055-235-8543  
FAX 055-235-8553

国際会長主題：ともに、光の中を歩もう  
アジア太平洋地域会長主題：ワイズ運動を尊重しよう  
東日本区理事主題：広げよう ワイズの仲間  
あずさ部長主題：継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう  
甲府21クラブ会長主題：実現可能な目標定め 山梨YMCAを支援しよう

Henry Grindheim (ノルウェー)  
Tung Ming Hsiao (台湾)  
栗本 次郎 (熱海)  
大野 貞次 (東京西)  
佐藤 重良

甲府21ワイズメンズクラブ  
**2017年11月会報**  
強調月間  
ワイズ理解 ファミリーファースト

## 今月の聖句

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である。」

マタイによる福音書 6章33節-34節 相川貴宏 選

## 会長挨拶

甲府21ワイズメンズクラブ会長 佐藤重良



佐藤重良会長

10月3日の例会で、「萌木の村」社長の船木上次様に清里の発展と現状の厳しさについて卓話をいただきました。船木様は、山梨県北杜市清里に生まれ、幼少の頃より清里開拓の父であるポール・ラッシュ博士と共に過ごし、教をいただきました。

船木様は、地元を生き生きとさせるためにはどうしたら良いものかと観光や文化の振興に情熱を注がれています。

地域を活性化するには、地域の強みを生かしたものが大切だともお話しされました。北杜市には「美味しい名水」が豊富にあり、ウイスキーの白州や日本酒の谷桜、米の武川米などが生産されています。9月の連休に萌木の村を訪ねた時はレストラン・ロックに行列ができていて、1時間待ち以上の盛況の状態でした。

地盤沈下する中で懸命に日夜努力され、ご活躍されている行動に感銘を受けたところです。船木様のアイデアと情熱とリーダーシップで清里地域が山梨県のブランドに発展する事だろうと思いました。

## 2017年11月例会プログラム

日時：2017年11月7日(火) 午後7時00分～

会場：山梨YMCA青少年センター

司会：駒田勝彦メン

- ①開会点鐘 佐藤重良会長
- ②ワイズソング・ワイズの信条
- ③今月の聖句 相川貴宏メン
- ④会員一言 相川貴宏メン
- ⑤会長挨拶 佐藤重良会長
- ⑥ゲスト・ビジター紹介 佐藤重良会長
- ⑦ハッピーバースデー
- ⑧ワイズディナー
- ⑨ゲスト卓話

子育て応援 みに北会代表 矢崎武雄氏

- ⑩諸報告
- ⑪YMCAの歌
- ⑫閉会点鐘 佐藤重良会長

## 【11月の誕生者】

【メン】

廣瀬 健(11月16日生) 赤根 学(11月19日生)

【メネット】

米長由紀子(11月9日生)

## 【卓話者プロフィール】



矢崎武雄氏

1944年山梨県甲府市生まれ。高校まで甲府在住。高校生時代に受洗し、H-Yで活動。2015年に「子育て応援 みに北会」を設立。埼玉県さいたま市内でベビーカーコンサートを開催し、運営を行っている。2017年10月27日には第4回ベビーカーコンサートを開催した。

在籍者数	25名
第1例会出席者数	23
第2例会出席者数	16
第2例会のみの出席者数	0
出席率	92%
記入担当	寺田

項目	ニコニコボックス	バザー収益金	クリスマスオークション	BCコンサート募金	街頭募金ファンド	切手
目標値	250,000	50,000	50,000	50,000	50,000	5,000g
9月までの計	55,374	—	—	—	—	900g
10月までの計	69,074	—	—	—	—	900g
達成率	28%	—	—	—	—	18%
記入担当	古屋	古屋	古屋	古屋	古屋	相川

## 2017年10月例会報告

甲府21ワイズメンズクラブ書記 寺田喜長



ゲスト卓話を聞く会員達

2017年10月3日＝甲府市・山梨YMCA青少年センター

ゲストの萌木の村株式会社社長・船木上次氏の卓話拝聴希望のメネット5名の出席を頂き、31名での例会となりました。会長はバザーへの協力要請と、ぶどうの木へのクラブの支援を考えてみたいと挨拶、賑やかなワイズディナーの後、船木氏の卓話を拝聴しました。

人間の本能や才能は持って生まれたもの、その生まれつきの性能に、出会った人々や育った場所、時代の本能以外の三大ソフトの影響でそれぞれの人間が形成されると船木氏は説明しました。

戦後の貧しい清里の地で、故ポール・ラッシュ先生の事業に賛同した優秀で輝いていた若者の中で育ち、今の自分が形成されたことはラッキーだったとも語りました。

船木氏は山梨観光大使として清里を含め地元山梨の活性化を模索しており、以前の清里の様に一時のブームに振り回され、ブームが衰退後は大手資本に吸収されてしまい、地元の活性化にはならないことを知り、リニアの山梨県駅設置が地元活性化と説く説は所詮大手資本の物となり、地元還元は少ないと分析しています。

地元の価値を知り、この地にしかないモノを理論武装し伝え、それに付加価値を付けることにより地元活性化を図ることが出来るのではないかと地元に愛に満ちたお話を拝聴、有り難うございました。

日時：2017年10月3日（火） 午後7時00分～

会場：山梨YMCA青少年センター

司会：輿水 会員一言：小澤(公)

ペンリレー：清藤

出席者：[メン] 相川 赤根 荻野 小澤(公) 小澤(智)  
鎌田 駒田 功刀 輿水 後藤 佐藤 清藤 茅野 寺田  
奈良田 野々垣 廣瀬 古屋 松村(禎) 松村(豪) 葉袋  
山県 米長 露木総主事

[メネット] 清藤 野々垣 廣瀬 古屋 松村(仁)

[ゲスト] 船木上次氏

## 2017年10月例会 ゲスト卓話より

甲府21ワイズメンズクラブ 茅野 崚



山梨の観光について語る船木上次氏

2017年10月3日＝甲府市・山梨YMCA青少年センター

人間生まれたときソフトは入っていません。成長する過程で増えていきます。現在、情報が多い中で人の人生の成長に影響を与える3つの要素があります。

- ①出会った人の影響
- ②育った場所の影響
- ③育った時代の影響

これらが人の歩みに大きな影響を与えます。人が生きる上で大切なものは何か？それは本音と建前が同じ事です。私は障がい者のスペシャルオリンピックスにかかわっていますが、彼らは建前と本音が違う人達です。

ポール・ラッシュ博士が48歳の時に清里に来られ、若く理想の高かった人達が集まり、観光と農業を中心にしたまちづくりを目指すキープ協会を設立しました。

芸術や文化を地域のブランドとしている京都・金沢・小布施と比較したときに清里はブランドがありません。

以前、清里の農家の人が土地の1/2を売り、民宿を建設運営しましたが、大手資本が進出してきて今は地元の民宿は全滅してしまいました。北杜市の大きな利点は、水が稀に観る名水であることです。ウイスキー工場・日本酒造り酒屋・米造りなどの優れたお酒や米が生産されています。価値を作る人が、価値を作れない人を支配します。此処しか無い物に付加価値を付けて、その中にメッセージを付けて、宣伝することが地場産業を発展させる事と考えます。

船木上次

(2017年10月3日 山梨YMCA青少年センターにて)

## 会員ペンリレー 相続すると言う事

甲府21ワイズメンズクラブ 小澤紀

私は現役時代不動産や建築の仕事をしておりましたが、何かと付き合いの多かったAさんが数年の癌との闘病の末亡くなりました。私より年齢も2年ほど若い旅立ちでした。亡くなって数ヶ月経った頃、Aさんの一人息子から連絡があり、その後の相続についての相談がありました。Aさんは法人・個人を使い分け、かなり手広く事業をしており、その相続財産も動産、

不動産を含めかなりの資産になるものと思われるのですが、その資産管理は全くと言っていいほどなされておらず、また負の遺産も金融機関をはじめ個人的な分も含め多数存在しており、実態の把握に大変苦勞をされておりました。

特に問題となったのは個人的な資産で、相続者である息子にその内容を知らせていなかったため、全体像が見えないということでした。例えば相続財産のうち、負の資産が多い場合は相続開始から3ヵ月以内であれば相続放棄できますが、負の遺産だけを放棄することはできません。全ての財産について放棄するか、相続するかを判断しなければなりません。

今回のケースでは最終的に相続することとなったのですが、相続人である息子は未だに明らかになっていない負の資産（個人的な借金など）が出てこないか不安を抱えて生活しています。

これらの資産はAさんが生きてきた証の一部なのですが、その為に自分の子供達に思わぬ苦勞とつらい人間関係を強いることとなるなど、Aさんの思いとは全く違う形で人生を閉じることとなりAさんをよく知る私から見ると大変空しい思いが残ります。相続というと、相続税対策など特に節税面が強調され、指南本は数多く出されておりますが、私にはそんな資産はないからとか、相続税の対象にならないから大丈夫とか思っている、それを相続する側からは「その人の人生を引き継ぐ」という面が必ず出てきます。

自分の生きてきた証を資産だけでなく人的資産も含め整理し、そのことを相続する人に伝えておく、または記録で残しておくことが大事であり、またそうすることで次の世代への責任を果たすことになると思います。

## 第21回あずさ部部会報告(2017~2018年度)

甲府21ワイズメンズクラブ EMC委員長 廣瀬 健



第21回あずさ部部会で報告する廣瀬メン  
2017年10月21日=東京・日本出版クラブ会館

台風の影響の中、愛宕町教会に集合し山梨YMC A露木総主事運転のマイクロバスにて神楽坂に向かい、受付時間の午前11時には無事到着しました。

第一部部会は現あずさ部長大野氏の開会点鐘で始まり、ホストクラブ東京西クラブ会長本川氏の歓迎挨拶、東日本区役員、来賓紹介が行われました。続いてあずさ部各主査報告、本年度あずさ部国際交流事業主査である私からは献金活動報告及び

国際規約の変更点を発表しました。

卓話スピーチは、東京西クラブ所属の医学博士竹内先生（91歳）から「誰でもなれる百歳長寿を目指す平成の養成訓」資料で頂いた中に自分自身の寿命が計算できるテキストがあり皆さんで盛り上がりました。

第二部懇親会はあずさ部次期部長である私の乾杯で開始。会食をしながら琉球舞踊のみなさんの演舞を鑑賞しました。「神楽坂で琉球舞踊？」と思いましたが本音は芸者さんによる日本舞踊と思ったのは私だけでしょうか？

出席クラブ紹介、アピールタイム、来年度東日本区、あずさ部行事予定など発表。最後に大野部長の閉会点鐘で幕を閉じました。閉会后オプション神楽坂ツアーが東京西クラブの方々の案内で行われました。

次期あずさ部長を務めるにあたり色々とお勉強させていただきました。甲府21クラブとしては来年2月にはあずさ部評議会（ホスト）、10月にはあずさ部部会（ホスト）がスケジュールに入っています。遠方から皆様が来県される訳ですから山梨甲府に沿ったイベントを企画し楽しんでいただきたいと思います。今回の神楽坂あずさ部部会は甲府21クラブからは13名が参加、全11クラブ中トップでした。他のクラブの方々は大変驚いていました。

甲府21クラブの結束力、行動力は来年度あずさ部長を務めるにあたりエネルギーをいただきました。



会場で披露された琉球舞踊  
2017年10月21日=東京・日本出版クラブ会館

## 何故ワイズメンズクラブは使用済切手を収集するのか

甲府21ワイズメンズクラブ TOF・BF・EF 委員長 相川 慎宏

使用済切手の収集は国際・交流事業分野の1事業でBFとは（Brotherhood Fund）事業の略称です。使用済の切手を集めて換金する方法と現金による方法（BF負担金@2, 000円でクラブ予算計上）があり、メンバーの国際交流の資金を作る国際事業です。（あずさ部の国際・交流主査は当クラブの廣瀬メンです。）具体的には国際役員やBF代表の公式旅行の費用にあてます。BF代表とは、国際から旅費を支給されて、他地域を訪問する代表者のことです。東京サンライズクラブの小山久恵メンがBF代表としての体験談を当クラブで卓話されたこ

とがあります。使用済切手はクラブのファンドとして現在900g集められています。例会時切手箱を置いておきますので収集にご協力ください。

## ワイズとファミリー

甲府21ワイズメンズクラブ DBC・IBC 委員長 奈良田和也

我が家では、仕事の都合で私は家を留守がちで、口さがない方々からは「お宅のご主人は大丈夫？(浮気)」などと言われます。また、2人の子供も東京で学生生活を送っております。夫婦の会話は、互いの年老いた母のことと実家のことが中心になり、私の実家は1軒置いて隣なので日常は問題はないのですが、女房の実家は車で1時間ほどなのです。これが近いようで遠くて、面倒を見るのがちょっと大変です。因みに女房の実家は私達夫婦が見ることになっています。そんな日常にワイズ活動が入ったので、共通の話題が増えて、今までより夫婦の会話の話題が増えました。

ということで、ワイズ活動は日常の時間を割くのは負担になりますが、夫婦の会話は増えたというところです。

## 第4回ベビーカーコンサート in 北区 見学報告

甲府21ワイズメンズクラブ書記 寺田喜長



ベビーカーコンサートの受付はボランティアが担当する  
2017年10月27日=埼玉・プラザノースホール

10月27日、さいたま市北区のプラザノースホールにて開催されたベビーカーコンサートを見学してきました。会場時間30分前からすでに30名ほどの親子が並んでいるのに驚きました。30数名のボランティアの方々がスタンバイし、手馴れた落ち着いた雰囲気での対応が感じられました。会場収容人員は403名ですが参加者は600名を超えていました。乳幼児は親の膝の上で親子で1名のカウントとなり、収容人数の調整がされています。障がい者施設の方、近くの保育園の園児は招待参加、障がいの軽い人は受付にてベビーカーを預かる作業に係り裏方にも協力しています。演奏が始まっても、泣き声あり、飛び回る子ありますが、通路にてリズムに合わせて踊る子、親の膝の上で手を叩く子、何でもありで皆さん楽しんでいます。

聞かせる曲、共に歌う曲など合わせて約50分間の音楽会でした。主催の「子育て応援 みに北会」は、このコンサートを開催するために作られたボランティア団体で、会の目的に賛同

する人は会費無料でコンサートの運営を手伝う高齢者の社会貢献活動の場とし、そして子育て中のママさん達、障がい者の方々にプロの音楽を楽しんでもう事を目的に活動しています。

何にもない一個人が、行政、地元メディア、保育園、障がい者施設等に働きかけ協賛を得て毎年2回開催を継続しています。若い家族の多い首都圏周辺という立地条件にも恵まれて毎回盛会で、リピーターとママ友仲間のメールによる情報交換が良き宣伝媒体になっています。申し込み方法もメールにて行い、入場券発行はありません。入場料は500円、演奏者はさいたま市音楽家協会から格安の出演料にて協力を得て、入場料と会場での募金のみで赤字なしの運営をされています。詳細は11月例会にて「みに北会」の矢崎代表にお話をさせて頂きます。



ベビーカーコンサートで演奏する出演者ら  
2017年10月27日=埼玉・プラザノースホール

## YMCA便り バザーへのご協力ありがとうございました

山梨YMCA総主事 露木淳司

年に一度の山梨YMCA最大で最長の歴史を誇るイベント「チャリティーバザー」が行われました。今年で第57回を数えます。甲府・甲府21・富士五湖の在梨ワイズメンズクラブとボーイスカウト甲府5団が中心となり、山梨YMCAのすべての事業に携わる人々が一堂に会し、地域の人々をお迎える文字通りFOR ALLの催しです。近い将来、建設しようとしているYMCAの新会館では、地域共生社会の実現を夢見て、青少年に加え、幼子と高齢者、障がい児と外国籍市民、あらゆる人々が垣根を取り払って、共にくつろぐことができる施設を目指しています。バザーは正にそのあるべき姿の縮図とも言えるイベントです。場所を変え、形は変わるとしてもこのコンセプトをいつまでも守り抜く意味でも、永遠に続けていくべき行事であると認識しています。今後共、皆様のご協力を賜り、この歴史の灯を消さないようにお支えいただきますようによりしくお願い申し上げます。

## ■今後の予定

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 11月20日(月) | フライングディスク大会支援(小瀬スポーツ公園) |
| 11月21日(火) | 第2例会(山梨YMCA)            |
| 12月2日(土)  | 三島クラブ40周年記念例会(静岡県)      |
| 12月10日(日) | クリスマス例会(山梨YMCA)         |
| 12月19日(火) | 第2例会(山梨YMCA)            |